新日本婦人の会宇治支部の高坂恵子です。本日は、意見陳述の機会をいただきありがとうございます。

私たち新婦人は暮らしのことや、社会保障、子育て教育、食べもの、環境、平和、ジェンダー平等など私たちの暮らし全般の課題を取り上げて、みんなが幸せになれるように活動している団体です。２００３年には平和の地道な活動が国際的にも評価され国連のＮＧＯ団体として認証されました。（国連経済社会理事会の特別協議資格、毎年3月の国連女性の地位委員会に正式招待、傍聴・意見提言できる）

さて、今回請願に至った思いですが、有料ゴミ袋の導入制を検討していると聞いて、「まだやるのか」という思いを強くしました。なぜなら、今年は3月末に宇治公民館の突然の閉館があり市民の活動の場が減りました。

7月からは公共施設の使用料の大幅な値上げがあり、　（ゆめりあうじの場合、去年は8280円で借りていたのが、今年は10100円かかりました。）さらに、財政的理由ということで、様々な事業が廃止され、新婦人も運営団体として長年にわたり参加してきた「消費者まつり」も廃止になりました。そこに追い打ちをかけるように「有料ゴミ袋制の導入」は、全市民の毎日の生活に影響がでる大問題です。有料化の目的は「ゴミ減量化をめざす」「新たな財源確保のため」と言うことですが、納得できるものではありません。

ごみ減量をいうなら、私たちは、日々の生活で必ず出るごみをいかに出さないか、少なくするか苦労し工夫し悩んでいます。商品に小さく細かく書かれた紙のマークやプラマークの印など、チェックしながら適正なゴミ出しに努めています。汚れのあるパックなどは、洗って水を汚し地球環境にゴメンナサイを言うか、このまま燃えるゴミにして環境は守るがゴミは増える、どっちがましかと、大真面目に悩んでいるのです。買い物にはマイバッグを持参してレジ袋ももらわないようにしていますが、持っていない時だってあります。ところがレジ袋も今は、透明のレジ袋が普通なので、持ち帰ってもゴミ袋として有効活用できています。それが指定の袋でないとダメとなったら、レジ袋はたまり、完全にゴミとなり、指定の袋に入れることによって逆にゴミが増えるという矛盾を生じます。高齢者の一人、二人住まいではそんなにゴミも出ませんから、レジ袋くらいでコンパクトにこまめに捨てられてちょうどいいのです。有料になったら、もったいなくて、袋がいっぱいになるまで捨てず、生ごみなどは腐敗したりして不衛生な状況が、あちこちで出ると思います。いっぱいになれば、今度は重くて収集場所まで運べない。不自由さも生まれます。不法投棄も増えると思います。

今は落葉も多くて、ちょっとお掃除しておこうと思うこともありますが、有料になったら、もったいなくて親切心もなくなってしまうのではないかと、そんなことまで考えてしまいます。また、バザーなどを利用して不要になったものをゴミにする前に循環させてもいます。

素案の14ページにも平成20年と比較して約15.3％、平成10年度と比較して約27.8%の減と書いてあり、市民の努力は大きいと思います。市民と行政がともに進めてきたゴミの減量化に有料ゴミ袋にして「お金を出せばもっと減るだろう」という考えは市民が軽く見らているようで、私たちも行政に対しての信頼をなくしてしまいそうです。

ゴミは、出したくなくても生活していれば、毎日、必ず発生するものです。

消費者の努力も限界です。もっともっと、業者に包装形態の工夫や軽減の指導をして、過剰包装などでゴミを買わなくていいように指導に力を入れてください。事業系のゴミの減量をもっとすすめてください。景気も冷え込んで、年金も下がっている、生活が切り詰めることだらけで大変な時に市民を苦しめるようなことはやめてください。低所得者になるほど負担も大きくなり、同じ量のゴミを捨てるのに不公平が生じます。

ゴミの収集や処理は税金でおこなうものです。税金で賄って下さい。ゴミ袋にごみ処理料金を上乗せするようなやり方は姑息としか思えません。

財源不足と言いながら、太閤堤跡の歴史公園事業には88億円も税金をつぎ込みながら、市民生活に直結する有料ゴミ袋制は納得できません。この思いで請願に至りました。よろしくお願いします。